

前作キュウリに使用した農薬の後作葉菜類（コマツナ・チンゲンサイ・ホウレンソウ・ミズナ）への移行*

青木こずえ

Uptake of Pesticides into Japanese mustard spinach, Green pak choi ,
Spinach and Potherb mustard after application on Cucumber

Kozue AOKI

要 約

施設内で前作としてキュウリを栽培し、定植時に 7 種類と栽培終了直前に 21 種類の農薬を処理して、後作として栽培した葉菜類のコマツナ、チンゲンサイ、ホウレンソウ、ミズナへの移行を調査した。その結果、ホスチアゼート、ジノテフラン、ボスカリド、チアクロプリド、プロシミドン、チアメトキサム、クロチアニジンが葉菜類に吸収されやすい傾向がみられた。

1. ホスチアゼートは、コマツナから農薬処理後 142 日に残留基準値を超えて検出され、基準値以下にまで低下するためには、処理後経過日数を 160 日以上要した。
2. ボスカリドは、ホウレンソウから一律基準値を超えて検出された。農薬最終処理後の前作キュウリ栽培期間を 22 日延長して播種した場合でも一律基準値を超えた。
3. チアクロプリドは、全葉菜類から一律基準値を超えて検出された。農薬最終処理後の前作キュウリ栽培期間を 22 日延長して播種した場合、チンゲンサイとミズナは一律基準値以下になった。
4. クロチアニジンは、ホウレンソウに特異的に吸収された。

キーワード：葉菜類，吸収移行，水溶解度，一律基準値